

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190900108		
法人名	株式会社サンテ		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	埼玉県久喜市下早見1186-1		
自己評価作成日	令和7年10月2日	評価結果市町村受理日	令和7年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和7年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「こころ」は入居様が安心して、自分らしく暮らす事が出来るよう家庭的な雰囲気、ゆったりと過ごしていけるように努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●隣接するクリニック・薬局には気軽に相談できる関係性が築かれており、定期往診だけでなく、夜間対応など急な受診を可能としており、安心な医療体制が築かれています。ドクターとの相談をもとに将来の生活に対する選択をサポートしています。
●権現堂に彼岸花を見に行くなど利用者が楽しめる行事が実施されています。車でのピストン移動を要し、職員の尽力にあらためて敬意を表します。
●エレベーターの設置、車いすの利用を考慮した廊下、着替えがしやすいトイレなど生活への様々な配慮がなされた室内となっています。特にリフト付きの浴槽は重度化への対応とホームでの生活継続を実現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はあり。理念共有の為掲示している。	事務室に理念を掲示し、周知を図っている。 職員体制は常勤率が高く、職員の連携により利用者の穏やかな生活と安定した運営が実現している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為中々交流参加は難しいが社協主催の行事には参加している	「地域の獅子舞が練り歩きに訪れる・機関の『ぼっちゃ』のイベントに参加する」などにて地域との親睦が図られている。近隣の方から野菜や果物をいただくなど温かな協力も得ている。	諸事情により、今年度は近隣小学校の運動会への参加が叶わなかった。 来年度は、利用者の健康状態や気候を十分に考慮しつつ、参加を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法は、地域の方に対しては発信していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ・インフルエンザ等の感染症対策地してここ数年資料配布し意見を頂戴していましたが今年度より、地域の方、市役所職員、地域包括の方に参加いただき開催している	行政・地域包括支援センター・民生委員・地域代表の方々を招待している。集合開催が再開されており、利用者の様子や運営状況などの報告がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば相談できる関係にある	行政や関係機関と関係性を築き、協調した支援に努めている。また、法人本部および法人内薬局との連携により利用者の健康と暮らしを見守っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に3回 内部研修を通じて、取り組んでいる。	身体拘束廃止・虐待防止の各委員会により職員への研修が実施されている。スピーチロックを議題としてとりあげ、利用者の意思尊重を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回内部研修を通じて学ぶ機会を設けて、理解した上で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については管理者が把握している。積極的に学ぶ機会は設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定の際には変更点をご家族に説明し、同意書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等については、契約時に重要事項説明書に相談窓口(外部窓口含む)を記載している。	毎月、写真付きの便りにて利用者の状況を報告している。本評価に伴う家族アンケートからは、温かな支援に対して高い支持が得られていることが理解できる。	コロナ禍以前は家族の参加のもと行事が開催されていた。現入居者の家族の事情や意見を考慮しながら再開が待たれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の時から意見を聞いている。その他に定期的なカンファレンスや委員会、会議など通じて、積極的に意見や提案を聴く機会を設けている。	フロア別、全体の職員ミーティングが開催されている。主に利用者個別のカンファレンスがなされており、あわせて職員の連携による支援の充実にもつながられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は直接会議に参加して、管理者から意見を聞くなどし、職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回、その時の課題に応じて、法人全体で研修を行う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ、インフルエンザ等の感染症対策として、見送っているが、徐々に再開していく予定である。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報収集の際には直接本人とお会いする機会を設けて、不安なことがあれば、解決できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から直接お会いして、当社に対するご要望について、対応できること、出来ない事を含めて返答し、安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階で、「その時」必要な介護計画を作成し提示している。入居後落ち着いた段階で再度計画を作成し見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の活動は、なるべく共に行うようにしているが、入居者の状況により出来なくなる時もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に対して、ご家族でないと対応できない事などに対し、協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が会いたい人や行きたい場所等可能な限り実現できるよう努めている。	洗濯物量みや手すり拭きなど日常的に家事参加がなされている。利用者同士の関係性に対しても性別や相性を考慮し、席の配置等が決められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しない様に間に入って支援したり、共同作業を行ったりするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もボランティアを通じて、関わってくださるご家族もいる。又相談があれば、いつでも支援できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の意見が見える様な支援をしている。意向を示す事が困難な入居者には義家族を通じて、検討している。	意思を表明しない利用者に対しても日々の観察から意向把握に努めている。アセスメント・モニタリングの結果がファイリングされており、確認や読み上げにより方針の統一に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り情報収集はしているが、十分でない場合もあり、入居後も情報収集を継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の有する能力に応じた支援をしているが、その日の心身状態に対しても、申し送りなどをして対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に担当者会議を開催し、意見やアイデアを収集している。	カンファレンスの結果をもとにケアプランの策定がなされている。モニタリング・プラン更新・家族への説明のサイクルが確立されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を記入する「生活記録」を個別に記録するほか、「連絡ノート」に記載された情報なども活用して、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は既存のサービスのみで、多機能化府は計れていない。ニーズがあれば、可能な限り挑戦したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は概ね把握できているが協働までには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に対し、引き続き適切な医療が受けられるよう連携し、支援している。	隣接するクリニック・薬局には気軽に相談できる関係性が築かれており、急な受診などの対応がなされている。介護と医療の切れ目ないケアの実現は本ホームの大きな特長となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化に対する日頃の情報や気づき等は、隣接しているクリニックに連絡、相談している。緊急時は昼夜問わず、対応や受診の判断を仰ぐなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関が隣接している為、常日頃から情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の病状に応じて、緊急時の対応を含め、早めに話し合いの場を設けている。	近接するクリニックは、定期往診だけでなく、夜間対応など急な受診を可能としており、安心な医療体制が築かれている。ドクターとの相談をもとに将来の生活に対する選択をサポートしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがある。書類での研修は行っているが訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のマニュアルがあるが、地域との協力体制までは築けていないが、火災水害共に利用者と訓練実施。	洪水、消火等に対する訓練が消防署立ち会いのもと実施されており、リスクの確認に取り組んでいる。利用者に、過去の体験を思い出しながら、水害時の様子を説明していただくなどの取り組みもなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人に対して、人権を尊重した言葉かけを行っている。	在籍の長い職員が多く、利用者個々の関係性が築かれている。同性介助による入浴支援などプライバシーに配慮した職員配置に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望などを拾い上げ、自己決定が出来るような働きかけはしているが、十分でない時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間など本人の意見を尊重し対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい衣類の着用や身だしなみの習慣（髭剃り、整髪、洗顔 浴後の肌のお手入れ）も都度対応するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	火を使う作業は職員が行う。他の作業では利用者の希望や能力に合わせ出来るだけ支援している。	火力の強いバーナーとオープンを備えたキッチンにより調理がなされている。利用者の状態にあわせた形態により提供と介助がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や飲水の一人ひとりの応力に応じた形態種類にしたりして、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うことで清潔を保持している。必要な方は介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間をチェックする事で、排泄の失敗を防ぐことが出来るように声掛けや誘導を行っている。	自然な排便が難しい利用者は、ドクターの指示に従い、薬剤での調整により健康を保持するよう努めている。スペースが確保されたトイレにより、失禁時の着替えについてもプライバシーを守ることができるよう活用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に運動を促したり、乳酸飲料を勧めたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日はきめている。ご本人様が入浴したくない日や体調不良などは都度日時変更にて対応している。	「浴槽とバスボードのレイアウトが変更できる」・「リフト付きのシャワーキャリー」が設備された浴室にて清潔保持を実施している。多数取り付けられた手すりや職員による留意により安全な入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて共用のリビングで過ごして頂いたり、それぞれの居室で休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の効果や副作用について把握するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての入居者ではないが、生活の中で楽しい役割を見つけていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日や当日の希望には応じられないが、事前に把握出来ている希望があればご家族に協力を仰ぎ支援している。	権現堂に彼岸花を見に行くなど利用者が楽しめる行事が実施されている。車でのピストン移動を要し、職員の尽力にあらためて敬意を表す。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内にお金を使う場所はないが、ご本人の安心感につながる為、無くなってもよい程度の金額を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば電話していただける。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、迷うことが無いシンプルなつくりをしている。季節が分かる様掲示板に飾り付けをしたり、大きな窓からそとをながめられるようになっている。時計も大きい文字盤のものを使用している。	エレベーターの設置、リフト付きの浴槽、車いすの利用を考慮した廊下、着替えがしやすいトイレなど生活への様々な配慮がなされた室内となっている。訪問調査時にはクリスマスの飾り付けが始められていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用リビングにソファを置き、ゆったりと過ごせる場を提供している。普段から気の合う利用者様が談笑や歌を歌いながらくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ、ご本人ご自宅で使っていた馴染みある日用品を持参していただくようお願いしている。	居室担当者は配置せず、全職員で全利用者を見守る体制となっている。テレビや嗜好品などが持参され、利用者それぞれの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、安全に生活できるような作りになっている。トイレやお風呂場、ご自身の居室が分かるように表示も大きくしている。		

(別紙4(2))

事業所名：グループホームこころ

目標達成計画

作成日：令和7年12月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	2	・地域交流に参加する事が出来なかった。 ・職員の体制により対応できなかった。 例) 運動会や地域のお祭りなど	・地域交流に参加する。	・職員の体制を整え、個々のスキルアップをはかる。また利用者の外出機会を確保する事で施設外での外出に対応する事が出来る。 ・ご家族の協力を得るために説明、同意やコミュニケーションをとっていく。	12ヶ月
2	54	・個々の利用者の状況把握や理解が足りなかった。	・利用者の状況把握。 ・個別ケアの実施。	・利用者へモニタリングを強化。 例) 月1回のカンファレンスだけでなく、常に変化や問題点に対応できるように情報共有に努める。 ・居室担当を設ける。	12ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。